



学校だより

令和5年 10月 31日(火)

11月号 No.8

横浜市立大豆戸小学校

TEL543-7911

(((((感謝)))))

副校長 山谷 浩司

校庭を吹き抜ける風に、秋の深まりを感じる日が増えてきました。街路樹や公園の木々の中には、少し色づき始めたものも見られます。季節はゆっくりと次のステージへ向かっているようです。

延期となりました運動会は、秋空の下、無事に終わることができました。これも保護者の皆様、地域の方々のご厚情の賜と深く感謝しております。運動会へのご理解とご協力、ありがとうございました。

さて、この時期から感謝をテーマにした催しやイベントを、ニュース番組や新聞を通して目にすることが多くなります。五穀豊穰への感謝、海の恵みへの感謝、健康成就への感謝…。感謝を表す形態も様々です。

2004年8月。ポーランドを旅した時の話です。この旅は、近隣の列強諸国から影響を受けながら歴史を紡いできた、ポーランドの光と影を訪ねる旅でもありました。第二次世界大戦下、ドイツ軍の無差別爆撃を受け、廃墟と化した市街地を見事復元させた首都ワルシャワ。バルト海貿易で繁栄した港湾都市グダニスク。中世の落ち着いた佇まいを今に残す古都クラクフ。これらはポーランドの誇れる文化遺産として輝いていました。一方、無数の砲弾を受けて崩落した建物が現存する第二次世界大戦勃発の地:ヴェステルプラッテ。ユダヤ人の絶滅を最終目的として運用が開始されたアウシュビッツ=ビルケナウ強制収容所。どちらの歴史遺産も当時の惨状をそのままの状態に残しており、「負」の遺産として決して拭い去ることのできない暗い影を落としていました。戦争が常に人間の最悪の部分を引き出すことを心に刻み、その場を後にしました。

ポーランドの歴史遺産を巡る旅も終盤に差し掛かった頃、ヨーロッパ特有の石畳の道を歩き続けた影響が靴に表れ、踵の部分が壊れてしまいました。歩き辛さが我慢の限界に達したところで、クラクフ中央駅近くで見つけた職人さんに靴の修繕を依頼しました。職人さんの隣には、10歳ぐらいの少年が手際よく作業を手伝っていました。修繕は15分ほどで終わりましたが、一生懸命にお手伝いをしていた少年に何かお礼がしたくなり、上着のポケットにあったガムを2枚、差し出しました。すると少年は、にっこり微笑みながら、「バルゾ ジェンクイエン(どうも ありがとう)」と言ってガムを受け取ると2枚重ねて二つに割り、半分の大きさになったガムを、近くで遊んでいた弟や妹に配って食べさせたのです。

ポーランドは2004年にEUに加盟しました。旅をした2004年当時、500mlのペットボトルの水が日本円に換算して約30円、缶ビールが約80円と、日本の1/3ほどの価格で販売されていました。国民一人当たりのGDPもEUの経済大国とは大きな格差があり、経済的に潤っている国ではありませんでした。しかし、この国には僅か2枚のガムを感謝して受け取り、いただいた物を公平に分けることのできる心豊かな少年が育っていたのです。私は少年の振る舞いに大きく心を動かされ、感謝することの意義を知りました。

新型コロナウイルスの大流行から4年が経過しようとしています。その間、医療に携わる方々の苦労は、筆舌に尽くし難いものがあったと推測します。現場の逼迫した状況が連日テレビで報道されていた頃、医療関係者に向けてキャンドルを灯したり、花火を打ち上げたり、弁当を差し入れたり感謝を示す動きが全国各地から伝えられました。これらの動きはさらに共感を呼び、感謝の気持ちが次々と連鎖していきました。

大豆戸小は子どもたちの登下校や校庭開放の見守り活動に始まり、水泳学習やミシン、調理実習といった教育活動の支援、全校遠足や校外学習のサポート、おはなし隊による読み聞かせ活動、教室カーテンの作成や図書館、花壇等の環境整備に至るまで、多くのボランティアの方々に支えられています。これらのご支援やご協力がなければ、教育活動を充実させることも、登下校や放課後の安全を確保することも、十分なものにはなりません。ボランティアとして関わってくださっている方々の存在が日常化しつつある中、ご支援、ご協力いただくことが、当たり前なことではないということ、子どもたちと一緒に考える時期に来ていると感じています。とりわけ、ボランティアの方々に対して、どのような態度で接すればよいのか？ また、感謝の気持ちをどのように伝えればよいのか？ 子どもたちが主体的に話し合い、創意・工夫を生かしながら自分たちの思いを表現してくれることを期待しています。